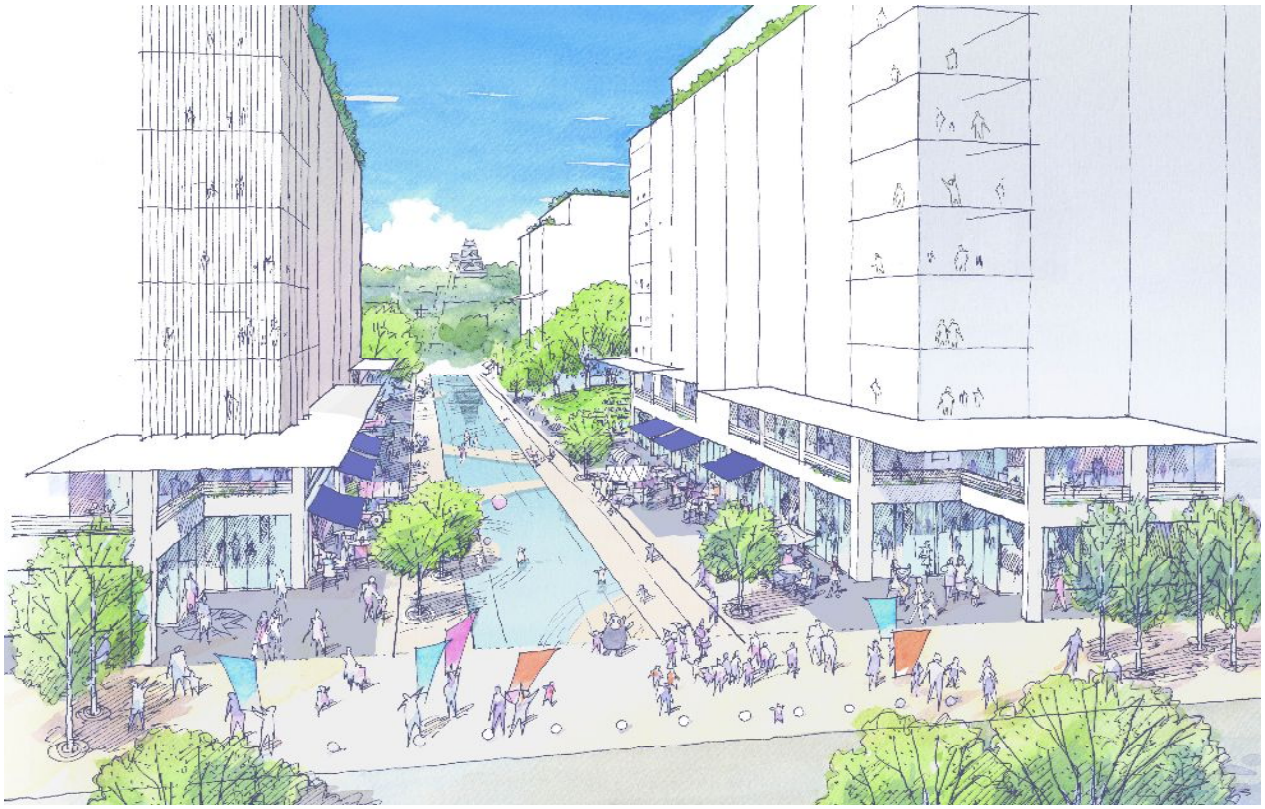
桜町・花畑周辺地区まちづくりマネジメント基本構想

シンボルロードからシンボルプロムナードへ
熊本城と庭つづき『まちの大広間』をつくる官民連携プロジェクト



平成 24 年　3月

熊　本　市

目　次

頁

はじめに
1．まちづくりマネジメント基本構想とは
（1）まちづくりマネジメントの必要性と基本構想策定の目的 1
（2）基本構想の対象エリア 3
2．桜町・花畑周辺地区の歴史的経緯 4
3．まちづくりビジョン
（1）桜町・花畑周辺地区の課題と展望 9
（2）桜町・花畑周辺地区の特性から見た担うべき役割 13
（3）目指すべき姿 13
4．デザインコンセプト 14
5．空間利活用の考え方
（1）基本的な考え方 16
（2）シンボルプロムナードの位置づけと使い方 18
6．空間・景観デザインの考え方
（1）基本的な考え方 21
（2）シンボルプロムナード自体の空間・景観デザインの考え方 22
（3）シンボルプロムナード周辺を含めた関連エリアの建物の規制誘導の考え方 24
（4）花畑公園・辛島公園の再整備の考え方 26
7．将来の管理運営の考え方 32
8．基本構想の実現に向けて 33

委員会の体制と開催経緯 34
参考資料 36

はじめに

本年4月１日に政令指定都市として新たな一歩を踏み出す熊本市では、多くの人々が集い、賑わいを創出する「日本一暮らしやすい政令指定都市」の実現を目指し、現在、中心市街地の再デザインに取り組んでおります。

近年、中心市街地では、往時の姿への本格復元が進む熊本城や桜の馬場・城彩苑が盛況を見せており、桜町・花畑周辺地区においても再開発事業の計画等、民間による動きが活発となる一方で、商店街地域での歩行者通行量は年々減少の傾向にあり、熊本城地区の賑わいを城下町へと結びつけ、さらには熊本駅周辺や新町・古町地区を含めた中心市街地全体の回遊性をいかにして高めていくかが課題となっております。

この桜町・花畑周辺地区まちづくりマネジメント基本構想は、二つの再開発計画が進む当地区について、その間を通る（通称）シンボルロードを歩行者空間化し、両再開発の一体性だけでなく、熊本城へと通じるこの通りを、お城から城下町へと人の流れが更に高まるような、そして市民にとっても来街者にとっても、憩い・集いたくなるような空間にするための街づくりを目指すもので、本市の今後のまちづくりを考えるうえで大変重要な構想として位置づけております。

構想検討委員会では、熊本県立大学の蓑茂理事長を会長として、学識や地権者、地元、行政等から委員に就任をいただき、「シンボルプロムナード（散歩道・遊歩道）」を中心とした新たな賑わい空間づくりに向けて、専門的な視点から数多くのご意見を賜ったところであり、この度、その成果を「桜町・花畑周辺地区まちづくりマネジメント基本構想」としてまとめさせていただきました。

今後は、この基本構想を規範としながら、桜町・花畑周辺地区が「まちの大広間」として多くの皆様に親しんでいただけるようなまちづくりに取り組んでまいりますので、引き続き皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

平成２４年３月

熊本市長　幸　山　政　史

東京に代表されるメガロポリス型都市形成に陰りが見えてきました。経済大国形成期の都市づくりの終焉と言えましょう。代わって関心を集めてきたのが品格ある都市づくりへの関心で、生活大国・日本をリードする地方の都市づくりです。

そうした転換期に政令指定都市になる熊本市は、これまでの政令指定都市の船出とは違い、2012 年発の新しいフロントランナー都市となる期待を集めています。

熊本市内には熊本城をランドマークとした 400 年の歴史都市の姿かたちがあります。145 年前の明治維新に続く文明開化により築かれた近代都市の骨格が、市区改正事業の成果などとして見えています。そして戦災復興都市計画で掲げた「学都・熊本」を表徴している学園都市の界隈が、市電の街並みと一体となって存在します。さらに森の都を構成する市中の緑に止まらず、この度の合併により広がった郊外の農業景観までが加わって政令指定都市・熊本の新しい風景を醸し出しています。

しかし、そうしたまちの姿にも綻びがみられます。まちの持続と発展のためには、改造やその前提となる再デザインが必要です。

桜町・花畑周辺地区もその一つです。街の真ん中にあり交通の結節点であることから熊本市民の大きな関心事です。当該地区には二つの再開発が予定されていますが、これらが既存の二つの公園とも相まって調和ある形でなされることが肝要です。そこでこれらの中央にある通称・シンボルロードの在り方を中心に「まちづくりマネジメント」の観点から地区まちづくりの方向性を検討しました。

熊本城と中心繁華街を繋ぐ位置にあることから、この空間に「鎹・くさび」の役割を持たせ、熊本城との関係では「庭つづき」の性格とし、ここが「まちの大広間」として使われ親しまれるように構想しました。これにより、歩行者中心の楽しく歩ける街を導きました。したがってこの基本構想では、従来のシンボルロードをシンボルプロムナードに変換させたことで一定の成果を得たものと考えます。

新たに生まれ変わるシンボルプロムナードは、21 世紀の新しい都市空間・広場空間としてモデルとなることを目指すべきであり、この取り組みを広く国内はもとよりアジア、そして世界に発信していくべきと考えます。

この基本構想はこの後、基本計画などへと順次具現化されていきます。提案したシンボルプロムナードの周辺では民間事業者によるプロジェクトが種々展開されます。それら再開発プロジェクト等の下支えとなるのがこの基本構想で、既存建物所有者を含めたこの地区に強い関心を示す多様なステークホルダーに共有していただくためのものです。豊富な知識と経験、豊かな創造力を結集して、選ばれる都市・熊本の顔が一日も早く実現することを祈念いたします。

平成２４年３月

桜町・花畑周辺地区まちづくりマネジメント構想検討委員会会長 蓑 茂 壽 太 郎
（公立大学法人　熊本県立大学　理事長）